

# ふじぎごころぶん

第168号

2015年  
6月号

## 「おりにぎごころのふじぎ」

はやく おとなに・・・

みいこちゃんと、おとなりのりんくんは、みいこちゃんのおばあちゃんちにきています。おばあちゃんは、まいとし、このころ、うめしゅと うめシロップをつくります。ふたりは、それを けんがく させてもらうことに したのです。

「おばあちゃん、この しろい あめみたいなのは、 なあに?」

「それは、 「おりにぎごころ」の うめシロップや うめしゅをつくるときに つかうのよ。」

「どうして、 ふつうの おさとうを つかわないの?」

「そうねえ。 どうしてかしらねえ。おばあちゃんの、おかあさんも おばあちゃんも そうしていたからねえ・・・。」

おてつだいに いらしていた



があこきょうじゅが、 おしえて くださいました。

「おりにぎごころは、 おおきな かたまりなので、 ふつうの おさとうよりも ゆっくり とけます。そのとける はやさど、 うめの おいしさが、 えきに しみだしてくる はやは、 ちょうど バランスがいいので、 おいしくなるのですよ。それから、 ゆっくり とけると、 あまさが したの ほうにだけ たまらないで、 ぜんたいに ひろがるので、 かきませなくても いいのです。むかしからの ちえなのです。」

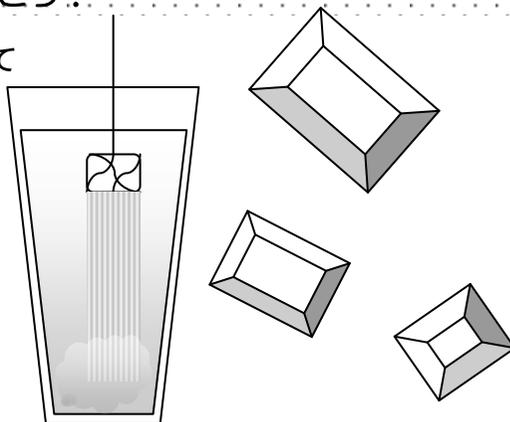
「さあ、ひとやすみいたしましょう。きょうじゅ、 きよねん つけた うめしゅを どうぞ。 みいこちゃん とりんくんは、 うめジュースね。」

「うめしゅって、 おいしそう。」

「みいこちゃん、 おとなに なってからね。」

かんたん？ いがい？ ためしてみよう！  
ほんとにとけるの？ かたい こおりざとう！

こおりざとうに、いとを しばってつけて  
がらすの こつぶに 入れた  
みずのなかに、たらししてみよう。  
ぐんぐん とけていく  
ようすが みえるよ。  
いろの ついた ドロップだと  
どうかな？



## クイズコーナー

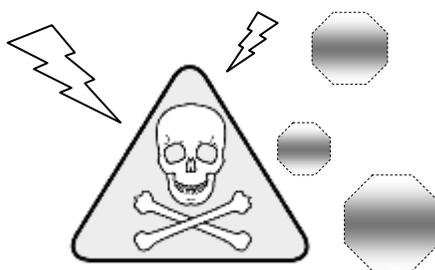
① ウメの なかまは どれ？

1. チューリップ
2. バラ
3. カーネーション

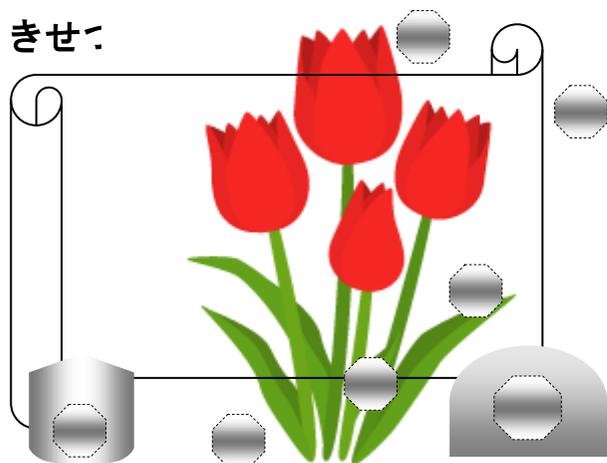


②

「あおいうめのみ」は、  
どくって、ほんとう？



きせつ



うめがまるごとはいっています。

みんなが みつけた ふしぎ

どうして おとうさんの  
ビールは おひげになるの？  
ラムネじゃ だめなの？  
(ビールの泡がついてお髭になるのを見て)  
(年長組)

みんなも みつけた  
ふしぎ おしえてね

## 夏の飲み物、梅酒！

キャンデーはなめけると溶けます。

もし、口の中が乾いていたら、キャンデーが溶けないので、甘さを感じることもありません。水分がキャンデーを溶かしてくれて、初めて私たちの舌に甘さが届きます。

氷砂糖もしかり。水に放り込むとぐんぐん溶けます。試しにスプーンにのせた氷砂糖を水を入れた丈の高いグラスの上の方に、水につかるように置いてみてください。少し経つと、いかにも濃度の違う透明な液がスプーンから溢れ、瀧のように水の中を落ちていく様子が観察できます。シュリーレン現象と言います。糖分を多く含む液は普通の水に比べて屈折率が高く、水と違った角度の光の進み方が、水中に奇麗な透明の滝を作り出します。

さて、梅酒はアルコール分が高いですが水分も多く含んでいて、おもに水の分子が氷砂糖の大きな分子と手をつなぎやすく、砂糖の分子は水の中にどんどん溶け込んでいきます。

梅の実の内側と、外の液との間には糖分の濃度の差が来て、濃度が高い外の液に梅の実のエキスが染み出てきます。梅の実の表皮が境目の膜の役割を果たし、そこを液が出入りするようになります。

このような濃度の違いによる液の移動を、浸透圧によって液が出たといいます。詳しくは9月号のキュウリ揉みのお話のところで述べたいと思います。

梅酒を造る時に氷砂糖を昔から使うのは、が

糖よりもゆっくり溶けるからによりま

す。急に濃度差が大きくなると梅から一気にエキスが出て、梅がしわしわになるようです。じわじわとした変化が梅をふくよかなままに保ちながら、まろやかな梅酒を作り出します。

梅酒はかつては夏の代名詞のように言われた飲み物でした。疲れを撃退する薬酒の一種ですから、老若男女の夏の健康の為に、梅干しと同じ時期に各家庭でたくさん作りました。夏には飲めるようになりませんが、その年のものではなく、以前につけた味の練れたものを飲む場合も少なくありません。昔は普段はお酒に縁のなかった子どもも、梅酒ならば氷水で薄めたものをちよつぱり飲ませてもらったりしたものです。甘い飲み物の少ない時代には素敵な贅沢でした。

現在は子どもにもアルコール分はだめということで梅ジュースが主流です。

梅はクエン酸、リンゴ酸を豊富に含んでいます。梅酒もジュースもはこれを効率的に溶けださせた飲み物、抗酸化作用も確認されています。血流を良くして冷えの撃退も可能です。ちなみにかなり甘めの梅酒（質量の6割強の氷砂糖）の方が、機性能成分を高める結果も出ています。また、一晩冷凍してからつけると早く

つかるといふ報告もあります。



## 子供が見つけた不思議・ミニ解説

お父さんのビールの泡は本当にクリーミー、口の周りにつくとお髭みたいです。ラムネもビールみたいにしゅわしゅわ白い泡がたくさん立つのに、なかなか泡のお髭にはなりません。泡の種類が違うのはよく見ていると消えるまでの時間の長さでもわかります。ビールの泡は本当に消えにくい泡なのです。ラムネは砂糖水の中の二酸化炭素の泡。泡の膜は砂糖水なので、それほど強い膜ではありません。一方、ビールの泡の中の気体も二酸化炭素ですが、泡の膜がかなり違います。ビール内にふくまれるタンパク質が界面活性剤として働き、泡の膜をつくる手助けをします。また、糖分と、ホップから生じる樹脂をふくんだ化合物が粘り気を与え、泡を長持ちさせます。ちなみに、ビールの泡の部分は液体の部分より、アルコールを含むビールの成分が濃くなります。泡が作るお口の周りのお髭も本格的なビールと言っていいでしょう。

## 梅雨、霪雨・・・

タイトルどちらの字も「つゆ」。じめじめ感

はなかなかのもの、毎日の湿度は春先の倍くらいありそうです。そんな中、虫も花も、カタツムリやナメクジ、キノコもこけもカビも元気いっぱい活躍しています。今月はどんなふしぎに出会えるでしょうか。ぜひ、身の回りで出会ったふしぎをお知らせください。ふしぎ新聞はそんな皆様からのふしぎを元にできております。

ふしぎ新聞は無料でダウンロード可。少しばかり更新が遅れますがお許しを！紙面でお読みになりたい場合は、一年間(11回)の1100円を定額小為替か小額切手でお願ひしています(3部まで同封可)。

URL: science-with-mama.com

発行：ママとサイエンス 代表者：田中幸・結城千代子 メインイラスト：たまたろ

問い合わせ先：〒182-0012 東京都調布市深大寺東町6-16-23 結城

連載 よみきかせ ふしぎストーリー

シヤケの来る川 ① ふたば幼稚園のお話

みうちちゃんのふたば幼稚園は、小さな小さな幼稚園です。お友達は十二人、先生は園長先生とまきこ先生と、お手伝いに来てくださるみか先生だけです。

園舎の隣に園長先生の家があり、幼稚園の裏にはお芋畑があつて、その向こうは小さな森になつています。さらに、森を抜けると崖になつていて、海が広がっています。

真つ青に波が寄せている海は、右手の方から左手の方まで、見渡す限り広がっていて、島は見えません。

園長先生は「太平洋ですよ。この海をずっとずっと船で進んでいくと、アメリカに着きます。」といつていました。

みうちちゃんは、本当かなあ？と、思っています。時々、大きな船が沖を進んでいくのを見ると、いつか大きくなったら、あんな船に乗って、園長先生のお話を確かめに行きたいと思つています。

あるひ、みうちちゃんがお芋畑の草取りのお手



幼い男の子がお友達の子をドンと押ししました。押された女の子は泣き出しました。男の子は先生に叱られて、謝りなさいと言われましたが、かたくなに下を向いていました。そこで先生はなんで押したのかと

思いと言葉

優しく聞きました。すると、「行かないとだめだから、教えた」と言いました。先生が「前の人に続いて歩いてね、追い越さないで」と言ったのを聞いて

伝いをしていると、ちあきちゃんが駆けてきて、まき子先生を呼びました。

「先生、まき子先生、小学校のお兄ちゃんたちがきたよ。」

みると、ちあきちゃんの後ろから、三、四人の小学生が、園長先生と一緒に現れました。

「あ、ひさとお兄ちゃんだ。」

「まあちゃん！」

「かず兄、どうしたの？」

お友達が口々に名前を呼びます。みんなのお兄ちゃんや、お隣のお兄ちゃん達です。

園長先生がにこにこして言いました。

「皆さん、ちよつと聞いてくださいいね。」

「はい。」

お手伝いの手を止めたみうちちゃんたちは、いいお返事をして、園長先生と小学生のお兄ちゃんたちを見比べました。

小学生はみんなの前に来て、ちよつときちんと立つと、顔を見合せてから、せえの・・・で覚えてきたセリフを言い始めました。

「ふたばようちえんのみなさん。どうぞ、ぼくたちのお祝いの会に来てください。」

お祝い？みうちちゃんは首をかしげました。誰かの誕生日なのでしょうか？ (つづく)

て、進みたいけれど前の女の子がおしやべりを押していたので動かないから押してあげて、教えてくれたらいいかな、と、お言葉で言おうね。

「いたずらで押ししたんじゃないか、と謝りました。やなくて、教えてくれたんだね。」と言われ、女の子も頷きました。みんな、いろんな思いで動きまわります。言葉にできるようなるまで、もう少し...

今月の話題より

ちょっと変わった絵本の楽しみ方

梅酒が出ている絵本はさすがに見つからなかったのですが、美味しそうなおエキスのジュースは見つかりました。チリとチリシリーズ「はらっぱのおはなし」(アリス館) 双子の自転車に乗る少女チリとチリ原っぱのユガネムシの家では爽やかな絞ったての葉っぱのジュースを御馳走になりました。「リッランとねこ」(福音館) 道で会った猫に乗ったリッラン。たったか駆けてあちらこちらへ。王様のお城ではジュースにケーキに砂糖漬けのフルーツなどお腹いっぱい食べます。「たろうのひっこし」(同) 古い絨毯を広げたところが太郎のお部屋。それは素敵、いろんなところにお部屋ができます。桜の木の下にできたお家ではお母さんの差し入れのジュースが美味し



そう。レモネードが出てくるのは白黒の美しい絵本「かぜはどこへいくの」(偕成社)。お昼過ぎに梨の木の下でお友達と飲んでいます。ブドウジュースは「アナグマのもちよりパーティー」(評論社)。アナグマさんのパーティーに何も持たずに来たモグラさん。でも、モグラさん自身が最高の才能の持ち主です。モグラさんのおかげで、素敵なパーティーになりました。さて、今度は氷砂糖ならぬキャンディーが登場するお話。「えるまーのぼうけん」(福音館) 森の動物たちを次々に知恵を出してやり過ぎたエルマーが、ワニを並べて川を渡る為にワニのしっぽに結びつけたのが素敵な棒付きキャンディー。「たんたのたんけん」(学習研究社) ぐりぐらの中川・山脇コンビの作品。たんととひょうの子が探険に持っていく為に選んだのはザラメの付いた三角の赤い大きなストロベリーキャンディーです。